

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷 1Fいぶき		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設後、間もなく丸8年となりますが、地域住民の方や、近所の小中学校等との交流も盛んで、地域に根差した事業所として認められてきたことを実感しております。
平成27年10月から、毎月第2土曜日に、同じ圏域の介護事業所や、地域包括の職員と共に、地域のボランティアさんの協力をいただきながら、「おれんじカフェ」を開催しており、認知症に興味をお持ちの方、認知症を予防したい方、また、認知症の方や、その方を介護されている方を対象に、地域の高齢者が引きこもることなく、楽しんで集える場として、身近に感じていただけるようになりました。
また、平成28年の8月には市内で唯一、GHの共有スペースを利用して、共用型の認知症DSを開設し、通常型のDSでは活動が楽しめなくなった方が、安心して過ごすことが出来るようなサービスを展開しております。
入居者様の平均介護度は市内でも高いほうですが、出来ることに目を向け、挑戦していただけるお手伝いを心がけております。
これからも、地域の高齢化に伴い、GHの担う役割は益々増えるものと考えており、職員一同広い視野を持って、認知症ケアに取り組もうと考え続けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム共栄の郷」は、近隣に小学校や公園などもある幹線道路に面した住宅地に立地している。1階に共用型の認知症デイサービスを併設した2ユニットのグループホームで、認知症カフェなども開催しながら地域との交流に努めている。地域の「ふれあいの集い」や夏祭りに参加したり、近隣の方に野菜や漬物、手芸品などを戴くこともある。また、幼稚園の運動会や小中学校の職業体験の受け入れを通して子供たちと継続的に交流を深めている。運営推進会議では、在宅における認知症介護やグループホームにおける看取りなどのテーマで毎回ミニ勉強会を開催して家族や参加者に多彩な情報を提供している。行政との連携も深められており、施設長が依頼を受けて「認知症ヘルパー研修会」、地域や小学生向けの「サポーター養成講座」の講師を努めている。毎月大型ショッピングセンターの訪問販売もあり、利用者が買い物を楽しむこともある。協力医療機関、専門医の受診は事業所に対応しており、主治医と情報を共有しながら適切な医療を受けられるように支援している。介護計画の評価欄を活用して日々のケアで気付いたことを各職員が記録に残してモニタリングに活かすなど、工夫した取り組みを行っている。施設長と管理者は日頃から各職員の提案や希望を汲み取りながら、働きやすい職場環境作りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの掲示板の他、職員のネームプレートの裏側にも理念を記したものを携帯しており、日頃から理念を意識したケアについて勉強会を行う等して、職員全体で取り組んでいる。	地域密着型サービスを意識し、「私たちは、ご家族様や地域とのふれあいを大切にします」という文言をケア理念項目の一つに入れている。施設長や管理者は、ミーティングや勉強会、家族アンケート結果の報告時などに再確認するよう伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H27年度の10月から併設の事業所で実施している認知症カフェの参加者やボランティアと交流を深めることができている。幼稚園・小・中学校との交流学習や町内会の催し物にも参加し、地域との交流も図れている。	地域の「ふれあいの集い」に参加して魚のつかみ取りをしたり、夏祭りに参加してジンギスカンなどを一緒に味わっている。ギターの弾き語りボランティアが来訪することもある。近隣の方に野菜や漬物、手芸品などを戴く機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症カフェの実施など、専門性を活かし、より認知症への理解が地域全体で深めて頂けるよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様をはじめ、地域の住民の方や民生委員、福祉委員の方々が参加して下さり、当事業所の取り組みについての報告や勉強会等を通し、毎回、様々な話し合いが持たれ、サービスの向上に反映できている。	インフルエンザや食中毒、高齢者施設における防火・救命などのミニ勉強会を毎回実施している。参加家族が固定化しているため、今後は参加できない家族からミニ勉強会の内容についての質問なども事前に聞き取り会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、市の担当者とは、電話やメールを通して連絡を密にとる事ができる確かなアドバイスを頂いている。また、9月に行われるバーベキュー行事には、地域の高齢者支援センターとも連携を図り、協力体制を築いている。	施設長は行政から依頼を受けて「認知症ヘルパー研修会」や「サポーター養成講座」の講師をしている。管理者は書類の提出で市役所を訪問したり、何かあれば電話で相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する事業所内・外部研修の参加、事業所内での勉強会を通し身体拘束を行わないケアに取り組んでおり、職員の休憩室には身体拘束に関する具体例についての貼り紙を掲示し、普段から意識づけている。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため、他事業所と共有し行っている。	「身体拘束廃止マニュアル」を整備して年1回は勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為も確認している。気になる言葉がけがあれば、他者に分からないようにその都度注意を促している。利用者が外出しようとした時も行動を制限することなく、さりげなく声かけしたり一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、身体拘束と虐待に関する事業所内の勉強会を持っているほか、法人内・外部研修に参加した際には、職員間での情報を共有し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な外部研修で権利擁護と制度に関して学ぶ機会があり、又、実際に成年後見に関する問い合わせもあり、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、契約内容に変更があった場合には、運営規定や重要事項説明書等を用いて、その内容について、わかり易くご家族様等に説明し、不安や疑問に答え、安心して頂ける様取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱がある他、年に1度のアンケート調査を行い、事業所に対する率直なご意見を頂く機会を設け、アンケート結果を職員間で検証する機会を持ち、今後の運営に反映している。	家族の来訪時に些細な意見を聞き取ったり、家族の仕草などから思いを汲み取っているが、口頭で伝えることが多く記録には残していない。毎月の広報紙で利用者の様子を伝えている。今後は、広報紙に個別のコメントを記入することも考えている。	継続的に情報を共有できるように、個別ノートを活用して家族の些細な意見や要望、職員の気付きを記録に残すよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い、職員一人一人の職務や運営に関する意見を聞く場を設けているが、日常的に施設長や管理者に対して自由に意見を発信できる環境や関係作りを整えている。	合同ミーティングで気になることを検討したり、テーマに沿って意見交換している。管理者は、普段の業務の中で個別に話しをする機会をつくりながら、各職員の意見や要望を聞き取っている。勤務体制も各職員の意向を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「プライベートの充実なくして仕事には集中できない」という観点から、職員一人一人の生活スタイルに合わせて、より働きやすい勤務体制や給与水準に関する相談を日ごろから行っており、又、一人一人の力量に合わせたスキルアップの支援を行いやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人内、外部研修などの機会を職員に対して積極的に勧め、勤務調整や研修にかかる費用があれば、法人で負担するなど、受講し易い環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH部会主催の食事会や合同研修会を行い、スタッフ間での交流が図れている。また、市内の介護事業所職員の交流会もあるほか、認知症カフェや共用型DSを通じ、他事業所や包括の職員と交流も増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、健康状態やADLの確認と現在の困り事などを傾聴しスタッフ間で共有する事で、安心して入居頂ける環境を整えている。又、入居直後もコミュニケーションの機会を多く持ち、不安が取り除けるよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、心配事や不安に感じている事、困りごとなどを十分に傾聴し、可能な限りのアドバイスをさせて頂き、入居後もコミュニケーションの機会を意識的に多く持ち、相談しやすい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階から、ご家族様やご本人のご意見に耳を傾け、必要に応じて、他のサービスの提案をさせて頂く事もあり、選択肢の幅を広げた上で、ご本人やご家族様に自己決定して頂くよう努めており、入居後も法人内の各部署と連携し支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る上で、ご本人のできる事をひとつでも多く引き出し、共に支え合う関係作りに取り組んでいる。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や様子に変化があった場合にはご家族様に丁寧に状況を報告。また、行事や誕生会にはご家族様にもご参加頂ける様働きかけることで、共に支える関係を築いていけるよう取り組んでいる。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人など馴染みのある方々の面会や、ご家族様の協力のもと馴染みの美容室に通うなど、入居してからも以前の関係が途切れないよう取り組んでいる。面会し易い雰囲気作りにも心掛けている。	高齢者住宅で一緒だった方が訪ねて来たり、習い事の生徒が来訪する利用者もいる。友人から手紙や年賀状が届くこともあるが返信は難しくなっている。移動販売で買い物をする事もある。花見や紅葉見学などは、例年同じ場所に出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとりひとりの性格や相性などを把握し、必要に応じて職員が間に入り良い関係が作れる様支援している。また、様々なレクなどにも取り組み、入居者様同士が関わり合える環境作りにも取り組んでいる。			

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談事などいつでも対応出来る事をお伝えし、今までの関係性が途絶えないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアやコミュニケーションから、個々の思いが把握できるよう努め、コミュニケーションが困難な方に対しては、表情や行動から汲み取り、本人本位のケアが行えるよう取り組んでいる。	会話からの把握は困難になっているため、表情や仕草などから読み取るようにしている。利用開始時にセンター方式シートを作成しているが、趣味や嗜好などの情報の更新は行われていない。	センター方式B-3シートを作成し、随時変化を追記すると共に、定期的に書類を更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際の面談やご家族様からのアセスメントシートの情報を基に、これまでの生活歴やサービス利用経過等を把握し日々の生活の中でのヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からひとりひとりの過ごし方を細やかに観察し、職員間で共有。また、定期的な受診から心身状態などの把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングや定期的なケース検討会、ケアプランの評価欄への書き込みをもとに職員間で意見交換を行い、より現状に即したケアプランを作成している。ご家族様との会話から挙がった意見・要望もケアプランに反映している。	計画作成担当者を中心に3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に介護計画を作成している。介護計画に沿って「生活日誌」に変化などを記入しているが、職員によりばらつきがあるため、全職員が記入できるような方法を検討したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを記録台のそばに置き、プランに沿ったケアや記録を行い、ご本人の言葉で記録する。日々の気づきや変化を見逃さず、連絡ノートを活用しながら職員間での情報共有に努め、支援に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況やニーズの変化に応じ、機能訓練士による身体機能の評価や生活リハの提案。また、地域のボランティアの方々の導入に向けての取り組みを始めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の状況やニーズの変化に応じ、機能訓練士による身体機能の評価や生活リハの提案。また、地域のボランティアの方々の導入に向けての取り組みを始めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医のもとでの定期検査の他、身体状況の変化があった場合には24時間体制で指示が受けられる体制が整っており、主治医以外のかかりつけ医への受診も職員が付き添い支援している。	協力医療機関を受診する時は、「受診連絡表」に本人の健康状態を記入して持参し、医師が診察結果を記載している。「受診結果」用紙に個別に受診状況を記入して情報を共有している。	

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で体調の変化や気づきを看護師に相談し、アドバイス、必要に応じた処置や受診が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書や介護添書で入退院時の情報交換を行っているほか、入院時には職員が頻回に面会に行き、病院関係者と情報交換を行いながら、早期退院に向けて病院側と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針については説明しているが、入居者様の身体的な変化や認知症の進行に伴い、その都度ご家族様に現状等を報告し、今後についての相談を個別に行い、ご本人とご家族様の意向を確認している。	利用開始時に「重度化に関する対応指針」に沿って事業所として可能な対応について説明している。訪問看護との連携について説明し、希望に応じて看取りも行うことを伝えている。看取りの外部研修に参加し、内部でも勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時等の緊急時に備えたマニュアルや各入居者様の情報ファイル、連絡網を作成しているほか、定期的な普通救命講習を受講し、迅速に対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、訓練時には、地域住民や運営推進委員、地域に住むご家族様にもご参加いただき、緊急時の協力体制を築くことが出来ている。	同法人のデイサービスと合同で、消防署の協力の下に地域住民も参加して昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。災害備蓄品を整備して避難経路の確認をしているが、危険箇所の確認が十分行われているとはいえない。	地震時の危険箇所を確認して安全対策を行うと共に、各利用者に応じたケア別の適切な対応などについて話し合うよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を一個人として尊重し、常に相手の立場になって考え、人生の先輩として敬う気持ちで声掛けやケアを心掛けている。	採用時に、認知症ケアマニュアルでコミュニケーションを取る方法を学習している。職歴や生活歴に合わせて、言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような声掛けやケアを行うことで、主体的な生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、入居者様本位に基づくケアを行い、その人らしい生活が送れるよう、相手の視点に立った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容など身だしなみのケアや、ご本人の好みに合った服を共に選ぶほか、月1回の訪問美容での散髪や顔剃りなどを行うことで、おしゃれを楽しめるよう支援している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクや外食行事のほか、食事の準備や片付けなどを通して、様々なアプローチで、食事を楽しめるよう支援している。	業者からメニューと再加熱して使用する食材が搬入されるので盛り付けをして提供している。外食で回転寿司や握り寿司、ジンギスカンのお店に出かけている。ホットケーキを一緒に焼くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な栄養と水分量が摂れる様、ご本人の嗜好や咀嚼、嚥下機能に合わせた形態で提供。食事だけでは栄養が摂れない方には栄養補助食品の補食を取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに適した口腔ケアと義歯の洗浄管理などを行うほか、訪問歯科による定期検査や治療も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに応じた対応を行うことにより、清潔の保持に努めている。また、排泄表を用いて職員間で情報を共有することで、排泄の失敗を減らし、ご本人の尊厳が守られるよう支援している。	各利用者の生活日誌に、時間毎に水分、尿、便の記録を付けている。利用者の仕草や時間を見て、他者に聞こえないように耳元で優しく声をかけて誘導している。夜間のみ、居室で排泄用品を交換している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を積極的に取り入れ、運動の機会を設けることで、便秘防止に努めている。必要に応じて主治医と相談の上、整腸剤などでのコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好みや皮膚の状態に合わせた石鹸を使用、また、入浴剤の使用することで、より入浴を楽しめるよう支援している。ご本人の体調や希望により、午前・午後とも入浴を可能とし、希望によっては同姓介助にも配慮している。	利用者の希望に配慮しながら、週2~3回、歌や会話を楽しみながら職員の介助や見守りで入浴をしている。無理強いせず、本人のタイミングで入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や睡眠のパターンを把握し、睡眠不足や疲労、緊張などがあつた場合には、日中に休息を設けるなどして、身体に負担がかからないよう支援している。併せて、昼夜逆転にならないような支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情ファイルを用いり、個々の服薬状況の把握に努めるほか、薬の変更があつた場合にはその内容薬のと服薬後の様子や状態の把握を行い、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の性格や生活歴、趣味などに合わせた役割や楽しみ事を考え、体調や希望に沿いながら行っている。月に1度季節に沿った行事を提案し、日常生活内の楽しみ、気分転換に繋げている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族様のご希望に応じた外出先の提案を行い、外出行事にはご家族様もお誘いして一緒に楽しんで頂けるように取り組んでいる。	日々の散歩で近隣住宅の花壇を見たり公園に出かけている。幼稚園の運動会を見学したり、年間行事で平岡樹芸センターや支笏湖、サンピアザ水族館に外出している。また、角山農場に出かけて動物と触れ合っていて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、ある程度自己管理が可能な方については少額のお金をご本人に所持して頂き、訪問販売や外出先での買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、こちらから声掛けをし、通話できるよう支援を行っている。手紙についてはアプローチしても応じてくれることはなく、受け取るのみとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを置くことでくつろげるスペースを確保し、掲示板には入居者様の作品などを掲示している。室温などの環境整備にも配慮し、より良い空間づくりに努めている。	共用空間は、和風の壁紙や床材で落ち着いた雰囲気がある。利用者は、ソファや食堂の椅子など好きな場所に腰かけ自由に過ごしている。加湿器や廊下の手すりにタオルをかけて湿度管理もしている。季節の飾りや利用者の作品などもあり、落ち着いた過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを囲み皆さんで活動を行ったり、ソファに座ってギターを奏でたりと、思い思いに過ごせる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で長年使用していた家具などを持参して頂き、馴染みの物や思い出の物に囲まれた空間を作ることで、ご本人が居心地の良く生活できるスペースが確保できている。	照明器具と床頭台を設置している部屋に、自宅から持ってきた仏壇やテレビ、加湿器などを自由に配置している。携帯電話や時計を身近に置き、日めくり、家族の写真を飾って自分らしく安心して暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を掛けるほか、ドアの手すり部分に目印となるものを飾るなどして、ご自身の部屋だと解りやすい様な工夫を行い、安全で自立した生活が送れる様支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷 2Fうらら		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成30年3月10日	評価結果市町村受理日	平成30年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設後、間もなく丸8年となりますが、地域住民の方や、近所の小中学校等との交流も盛んで、地域に根差した事業所として認められてきたことを実感しております。
平成27年10月から、毎月第2土曜日に、同じ圏域の介護事業所や、地域包括の職員と共に、地域のボランティアさんの協力をいただきながら、「おれんじカフェ」を開催しており、認知症に興味をお持ちの方、認知症を予防したい方、また、認知症の方や、その方を介護されている方を対象に、地域の高齢者が引きこもることなく、楽しんで集える場として、身近に感じていただけるようになりました。
また、平成28年の8月には市内で唯一、GHの共有スペースを利用して、共用型の認知症DSを開設し、通常型のDSでは活動が楽しめなくなった方が、安心して過ごすことが出来るようなサービスを展開しております。
入居者様の平均介護度は市内でも高いほうですが、出来ることに目を向け、挑戦していただけるお手伝いを心がけております。
これからも、地域の高齢化に伴い、GHの担う役割は益々増えるものと考えており、職員一同広い視野を持って、認知症ケアに取り組もうと考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの掲示板の他、職員のネームプレートの裏側にも理念を記したものを携帯しており、理念を意識したケアについて、勉強会を行う等、職員全員で取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H27年度の10月から併設の事業所で実施している認知症カフェの参加者やボランティアと交流を深めることができている。幼稚園・小・中学校との交流学习や町内会の催し物にも参加し、地域との交流も図れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症カフェの実施など、専門性を活かし、より認知症への理解が地域全体で深めて頂けるよう発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様をはじめ、地域の住民の方や民生委員、福祉委員の方々が参加して下さい、当事業所の取り組みについての報告や勉強会等を通し、毎回、様々な話し合いが持たれ、サービスの向上に反映できている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、市の担当者とは、電話やメールを通して連絡を密にとる事ができる確かなアドバイスを頂いている。また、9月に行われるバーベキュー行事には、地域の高齢者支援センターとも連携を図り、協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する事業所内・外部研修の参加や、事業所内での勉強会を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでおり、休憩室には身体拘束に関する具体例についての貼り紙を掲示し、普段から目につくような環境を作り、意識を高めている。玄関の施錠については、交通量の多い道路に面しているため、他事業所と共有し行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、身体拘束と虐待に関する事業所内の勉強会を持っているほか、法人内・外部研修に参加した際には、職員間での情報を共有し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な外部研修で権利擁護と制度に関して学ぶ機会があり、又、実際に成年後見に関する問い合わせもあり、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、契約内容に変更があった場合には、運営規定や重要事項説明書等を用いて、その内容について、わかり易くご家族様等に説明し、不安や疑問に答え、安心して頂ける様取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱がある他、年に1度のアンケート調査を行い、事業所に対する率直なご意見を頂く機会を設け、アンケート結果を職員間で検証する機会を持ち、今後の運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い、職員一人一人の職務や運営に関する意見を聞く場を設けているが、日常的に施設長や管理者に対して自由に意見を発信できる環境や関係作りを整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「プライベートの充実なくして仕事には集中できない」という観点から、職員一人一人の生活スタイルに合わせて、より働きやすい勤務体制や給与水準に関する相談を日ごろから行っており、又、一人一人の力量に合わせたスキルアップの支援を行いやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人内、外部研修などの機会を職員に対して積極的に勧め、勤務調整や研修にかかる費用があれば、法人で負担するなど、受講しやすい環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH部会主催の食事会や合同研修会を行い、スタッフ間での交流が図れている。また、市内の介護事業所職員の交流会もあるほか、認知症カフェや共用型DSを通じ、他事業所や包括の職員と交流も増えている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、健康状態やADLの確認と現在の困り事などを傾聴しスタッフ間で共有する事で、安心して入居頂ける環境を整えている。又、入居直後もコミュニケーションの機会を多く持ち、不安が取り除けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、心配事や不安に感じている事、困りごとなどを十分に傾聴し、可能な限りのアドバイスをさせて頂き、入居後もコミュニケーションの機会を意識的に多く持ち、相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階から、ご家族様やご本人のご意見に耳を傾け、必要に応じて、他のサービスの提案をさせて頂く事もあり、選択肢の幅を広げた上で、ご本人やご家族様に自己決定して頂くよう努めており、入居後も法人内の各部署と連携し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の中で、ご本人が出来ることを見出し、共に協力し合うことで、自然と互いに支え合う関係性が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や様子の変化がみられた際にはきちんと状況をお伝えし、また、誕生日や行事などにもお誘いすることで、ご本人との楽しい時間を共有にして頂くほか、準備などにも快くご協力いただき、共にご本人を支え合う関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人のお宅に入居者様が招かれたり、ご家族様の協力の元、お盆にはお墓参りや、ご兄弟との面会など、入居前の関係性が入居後変わらず継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を踏まえた上で、家事やレクを通して入居者様同士が関わり合えるよう支援している。また、居室に閉じこもりがちの方には、職員が訪室し、個別での体操を実施するなど努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談事などいつでも対応出来る事をお伝えし、今までの関係性が途絶えないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションを通し、ご本人の意向や希望を汲み取れるよう努め、意思表示が困難な方に関しては、過去の言動などをヒントに、ひとりひとりの意向に沿った支援を行う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から今までの生活歴などをお聞きし、以前の生活環境や暮らし方からどのようなサービスを利用していたのか把握に努め、現在のケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中での気付きを、ケアプランの評価欄や連絡ノートを活用しながら情報の共有に努め、カンファレンス等で積極的に意見交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、気付いた点をケアプランの評価欄や連絡ノートに記載。また、カンファレンス等で挙がったアイデアや、ご本人、ご家族様からのご意見を生活記録に落とす事で、ご本人がより良く暮らすためのプラン作成の反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きをケアプランの評価欄や生活記録、連絡ノートを活用し職員間での情報共有に努めている。ご本人の訴え等はご本人の言葉で記載し、介護計画の見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況やニーズの変化に応じ、機能訓練士による身体機能の評価や生活リハの提案。また、地域のボランティアの方々の導入に向けての取り組みを始めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる催し物や幼稚園や小学校での行事、小・中学生の体験学習の受け入れなどを通し、地域社会とふれあい、入居者様の楽しみの幅を広げながら、QOLの向上を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、主治医のもとでの定期検査のほか、ご本人やご家族様のご意向に合わせ、職員によるかかりつけ医への受診介助も適宜行っている。ご家族様の同行が可能な場合には同行して頂き、しっかりとご意向に添えるよう努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で体調の変化や気付きを看護師に相談し、アドバイス、必要に応じた処置や受診が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書や介護添書で入退院時の情報交換を行っているほか、入院時には職員が頻回に面会に行き、病院関係者と情報交換を行いながら、早期退院に向けて病院側と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針については説明しているが、入居者様の身体的な変化や認知症の進行に伴い、その都度ご家族様に現状等を報告し、今後についての相談を個別に行い、ご本人とご家族様の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救命講習を受講しており、その後も定期的に受講できるよう取り組んでいる。また、緊急時に備え、入居者様の十分な情報が迅速に提供できるよう、情報ファイルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、訓練時には、地域住民や運営推進委員、地域に住むご家族様にもご参加いただき、緊急時の協力体制を築くことが出来ている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様間のトラブルなどがあった場合には、互いの自尊心を傷つけないよう個別に対応を行い、それぞれの意見を尊重しながら、ご本人が納得いくような声掛けや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し、様々な事が自由に選択できるよう支援している。行事の際には、お店からメニューまで選択して頂くこともあり、ご本人が選択できる環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には全員一緒に食卓を囲むようにしているが混乱や拒否が強い方には、ご本人の希望に沿い、場所や時間を替えて個別対応を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わない衣服を選んだ場合には、それを否定せず、ご本人と一緒に考えながら納得できるように対応を行っている。行事ではご本人の嗜好に合わせた小物等を贈っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味見や後片づけに参加して頂く他、ご本人の好みに合わせた食事形態などを工夫している。誕生会や行事等のメニューは、入居者様の好みや季節感を意識したメニューを取り入れ提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の咀嚼、嚥下能力に応じた食事形態で提供し、必要な栄養や水分確保のため、スタッフ間で情報を共有しながら工夫を重ね、体調管理が出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに適した口腔ケアと義歯の洗浄管理などを行うほか、訪問歯科による定期検査や治療も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様それぞれの排泄パターンを察知し、それに適した対応を図っている。トイレへのご案内時には、プライバシーに十分配慮し、自立に向けた支援を行なっている。又、立位が不可能な方も日中は二人介助でトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時の乳酸菌飲料の提供や毎日の十分な水分量の確保、適度な運動を取り入れ、定期的な排便に繋げている。また、決まった時間に必ずトイレに座って頂き排便を習慣づけている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴できる環境を整えており、全員が週に2回以上入浴できるよう声掛けを行なっている。入浴が好まない方には無理強いせず、日時や職員・タイミングなどを変えて、入りたいと感じて貰えるような声掛けを行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に高齢で体力が低下し、ベッド上での時間が長い方には、ご本人の体調を考慮して、出来る限りリビングに出る機会を持ち、メリハリのある生活を支援することで、十分な安眠・休息に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時の薬が処方された場合には、職員間で内容を周知し、副作用などを含むご本人の様子観察を強化し、必要に応じて適切な対応を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや収納、洗濯物たたみ、ゴミ出しの他、行事での挨拶や、唄の先生等、その方の能力や意思を尊重し、それぞれが役割を持って張り合いのある生活が送れるよう支援している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事にはご家族様をお誘いし、ご本人と共に季節ごとの風景や彩り等を楽しんで頂いている。行事の工程に食事や買い物等を組み込み、幅広く楽しめるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、ある程度自己管理が可能なお方については少額のお金をご本人に所持して頂き、訪問販売や外出先での買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、こちらから声掛けをし、通話できるよう支援を行って。手紙についてはアプローチしても応じてくれることはなく、受け取るのみとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く、開放感があり、清潔感のある環境作りに努めている。室温や湿度を管理し、必要に応じて暖房・換気などの調整を行いながら、快適に、それぞれがくつろげるような空間を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの自席以外にも、ソファやいすを配置し、好きな場所で新聞を読んだり、お茶を飲みながら職員や気の合った入居者様と談笑するなど、思い思いに過ごせる環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドなどの家具は、ご本人が使い慣れたものをご持参して頂き、今までの生活環境に近い空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を掛けるほか、入居者様の動線に障害物がないか、安全を最優先に考え家具の配置を実施。一人一人の能力に応じてベッドに手すりをつける等して起き上がりの自立を促している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム共栄の郷

作成日：平成 30年 4月 13日

市町村受理日：平成 30年 4月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族様の声を聞き取ったり、仕草から思いを汲み取ったりしているが、口頭で伝えることが多く、記録に残せていない。ご意見などを反映させるべく、「ご家族様ご意見ノート」を作成しているが、ほとんど活用できていない。	「ご家族様ご意見ノート」を十分に活用し、記録に残すことで、職員間で継続的に情報を共有できるよう取り組む。	どういった方法を取れば、職員が記録に残しやすいのか検討を行った結果、付箋に記録し、個別のページに貼って行くことで、都度ページを開いて記入するより、記載しやすいとの意見が挙がり、早速、実践に移している。今後、継続的に続けていき、様々な場面で活用していく。	1年間
2	23	段々と会話からの情報の把握が困難になっていることから、本人の趣味・嗜好の把握が十分ではないため、ケアにも活かしきれしていない。	センター方式B-3シートを活用し、本人の趣味・嗜好の把握に努め、ケアに活かす。	利用開始時にB-3シートを活用し、定期的に書類を更新し、本人の現在の趣味・嗜好の把握に努め、日頃のケアに活かしていく。	1年間
3	35	火災に対する避難訓練は実施しているが、地震などの大きな自然災害を含む避難訓練について、場面別での避難方法や危険箇所について検討が十分に行われていない。	地震などの大きな自然災害を含む避難訓練について、場面別での避難方法や危険箇所について検討を行い、安全対策を立て、職員間への周知徹底を図る。	避難訓練以外にも、ミーティングや勉強会などを活用して、場面別や災害別での安全な避難方法を検討し、マニュアル化して職員間で共有することで有事に備える。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。